

編集後記

年未年始のお忙しい時期にも関わらずご快諾いただき、ご寄稿いただきました教職員ならびに学生の皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。また、編集長の辻村先生におかれましても私の不十分な編集のために多大なる迷惑をおかけしましたが、的確にとりまとめていただき、心より感謝申し上げます。今回初めて歯学部ニュースの編集に携わり、いかに大変な労力の上で出来上がっているのかを知りました。この雑誌が新潟大学歯学部に関わる皆様に役に立つ何かをお伝えできる一助になれば幸いです。

顎顔面口腔外科 上野山 敦士

まず初めに執筆にご協力いただいた先生、学生さんに深く感謝申し上げます。特に「卒業生から」を執筆いただきました学生さんは、国家試験直前の時期にもかかわらず快諾をいただき、大変ありがとうございました。私はこの度、初めて編集に関わらせていただきましたが、年に2回発行のこの冊子ができあがるために多くの人が尽力していることをあらためて実感しました。今年はコロナウイルスの問題で、大学の状況が心配なご家族・OBの方が多かったかと思えます。本冊子が少しでも心配を解消する材料になることを願っております。

う蝕学分野 枝並 直樹

まず、年未年始のご多忙中執筆を快諾していただいた皆様に心より感謝申し上げます。昨年コロナ禍により物事がいつも通りにできないことが多いと思います。今回の歯学部ニュースでは、コロナ禍によって変化した学生生活や授業について多くの寄稿をいただきました。コロナ禍に対応するための様々な工夫と努力を知っていただくことで、皆様の新たな生活様式への工夫に役立っていただけたら幸いです。

歯科矯正学分野 大竹 正紀

最初に、ご多忙のところ原稿執筆をご快諾頂きました皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。歯学部ニュースは学生のみならず教職員も良い刺激を受ける素晴らしい冊子だと思います。臨床・研究・教育全てを網羅しており、その情報量と質のなんたることや！！（私の出身大学にはこのような素晴らしい冊子はありませんでした）。そのような歯学部ニュースの編集に少しでも携わることができ大変光栄でした。ありがとうございました。

摂食嚥下リハビリテーション学分野 那小屋 公太

この度、歯学部ニュース138号の編集長を担当させていただきました。現在、新型コロナ第3波の真ただ中で、この原稿を書いています。多くの行動制限が求められているなか、新潟大学歯学部では様々な工夫をしてコロナ禍に立ち向かっています。そこで今回は“コロナ禍の授業”という特集を組み、学務係から教育全般について、3講座の先生方から教育における取り組みについてご紹介いただきました。本号を通じて、少しでも本学の様子を知っていただけたら幸いです。ご寄稿くださった皆様、編集にご尽力くださった諸先生方、編集委員に心から感謝申し上げます。

摂食嚥下リハビリテーション学分野 辻村 恭憲